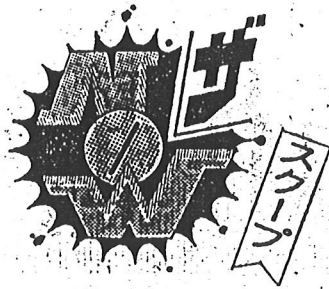


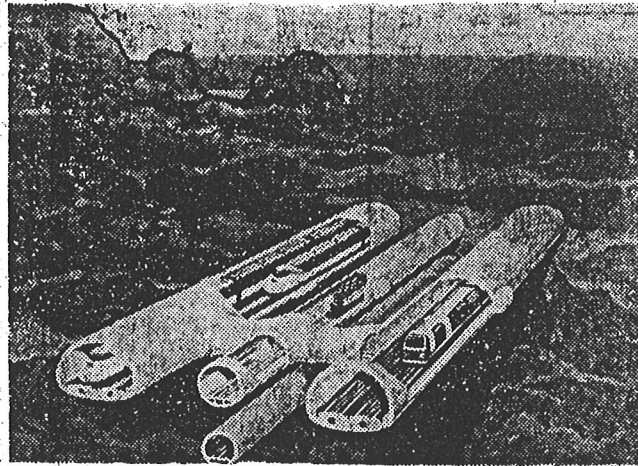
目的、めぐり入り乱れる情報



夢か謀略か 日韓トンネル ③

＜本紙特別取材班＞

現在も着々と進む海底調査



日韓トンネル完成予想イラスト

青函トンネルの3倍もの日韓トンネルは果たして技術的に可能だろうか。ユラシアドライフウェー構想を作った大林組広報課では「ただ掘るかどうかの問題ではないのです。ネックになるのは技術的な部分です。日本と韓国の政治、経済の方でしょう」という。

また、他の土木学者は「技術という点では長い目で見れば可能でしょう」と楽観的。

だが、仮にトンネルが掘れてもは、仮にトンネルが掘れてもは、仮にトンネルが掘れてもは、

だ。国際トンネルは史上まだ例がない。イギリス、フランス間のドーバー海峡トンネルを作ろうという話はナポレオンが十八世紀からあった。そして一八九〇年代には双方から掘り始めたが、議会の反対でストップ。掘る、掘らない、の議論は両国の間で今日まで続いている。

「トンネル内では一発大爆発を起す。トンネル内では一発大爆発を起す。トンネル内では一発大爆発を起す。」

神浦氏は、軍事目的説否定

四海峡封鎖のため 吉原氏

自動車は通行は不可能だ。トンネルが長すぎると換気が出来ない。九州と本州を結ぶ関門国道トンネルも換気の点で、これ以上の交通量増加は無理との見解がある。何よりも障害は技術面よりも、国と国を結ぶトンネルということ。

吉原氏は統一教会「国際ハイウェイ」を、それでトンネルはおしま

軍事データ集め!?

しかし、軍事評論家の神浦元彰氏は吉原氏の「海底調査説」を真つ向から否定する。

「海上自衛隊や米軍は海峡の地形や海流についての綿密なデータをとつての昔に持っています。現在海底にマイク・ロボンのようなセンサーを置き、海峡を通過する艦船のエンジン音、つまり音紋から船名を特定することも出来ます。今さら海底のデータなんていりませんよ」また神浦氏は日韓トンネルの軍事的意義をも問題視する。

青函トンネル

運を決議。三十八年に調査坑の掘り進みが開始された。今年一月先進掘坑が貫通した。翌年から調査坑が貫通して、実に四十四年の歳月が流れている。

てきたなら、それを追って九州に相手国の武装兵が上陸することになる。そんなわけで軍事的には日韓トンネルは考えられない。本当の目的は統一教会や勝共連合の資金集めでしょう」

ここにきて、日韓トンネルは統一教会の「謀略説」といふ噂や推測が急浮上してくるのだが。

スポーツニッポン

1983.11.26

No. 3

13面